「6大事業」で、誰一人取り残さない町さらに

職員の意識改革、横の連携強化へ

5月の町長選で無投票4選を決めた三郷町の森宏範氏は、12年にわたり町の発展と暮らしの質向上を目指し、SDGs未来都市の認定を受け「誰一人取り残さない」まちづくりに取り組んできた。4期目では官民連携、国との関係をさらに密にし、6大事業として広域防災拠点やまちづくりを進めていく。森町長に、奈良学園大学跡地の「FSS35（サンゴー）キャンパス」整備状況や、今後の三郷町のビジョンについて話を聞いた。

森宏範三郷町長、4期目就任インタビュー

自身が手作りしたFSS35キャンパスパースと、信貴山のどか村への土砂を運び込んだイメージを前に話す森町長

―2期目、3期目と続き、無投票当選となりましたが、これまでを振り返っていかがですか。

3期12年間の中で、大きく躍進できたのは3期目です。三郷中学校の新築やSDGs未来都市になったこと、そして日本遺産の認定をもらえたこと、これらが大きなことだったのかと思います。

―4期目をスタートした初登庁では、職員らに課と課を超えた連携について訓示されましたね。

これまで職員の意識改革に取り組んできました。従来の縦割りの行政ではなく横との連携をとることで、小さい仕事であっても大きくなると言ってきました。そうしてこの12年で、まだ100％ではありませんが、意識付けができてきたのを感じるようになっていました。また何か取り組む際には、住民を巻き込んで行うことも意識することが大事だとも伝え、今では官民連携が進み、それが6大事業にも生きています。

―6大事業について教えていただけますか。

一つ目は、安心して子育てができる環境と誰にとっても暮らしやすい環境をつくることです。待機児童を解消するという目的もありましたが、これについては春に保育園がオープンしたことで、すでに解決しました。次はこの保育園に併設して、就労支援施設をつくろうと思っています。これは官民連携として民間でやってくれるものになっています。二つ目は、スポーツで町を元気にする取り組みです。

―現在、奈良学園大学の跡地で整備を進めているFSS35キャンパスですね。

そうです。スポーツパークを作っています。元々は子どもの居場所づくりが目的だったのですが、その幅が広がりテニスコートやバスケットボールコート、BMX、スケートボードなどさまざまな年代で楽しめる施設になります。また、サッカーチーム「奈良クラブ」さんが、大学の信貴山グラウンド跡地をホームグラウンドとして整備を進めています。先日、共に盛り上げて行こうと包括協定の締結も行いました。

―FSS35キャンパス自体も6大事業の3つ目として含まれていますが、以前の発表から内容に変化はありますか。

民間の経験やノウハウなどもお借りしながら進めているもので進化を続けている状況です。さまざまな専門学校が開校する予定で、また「誰一人取り残さない」という観点から、こういった施設が欲しいということで、色々と交渉しているものもあります。サテライトオフィス2号店については、問い合わせが多く、すでに埋まりそうな勢いになっています。

―四つ目は。

日本遺産「龍田古道・亀の瀬」と関連したものになりますが、大和川の景観・自然環境を生かしたかわまちづくりです。五つ目の内容と重なるのですが、信貴山のどか村へ川底をさらった土砂を持っていく浚渫（しゅんせつ）工事が決まったことで、そのお返しのような形で国交省から言ってもらったものになります。浚渫とかわまち、日本遺産の交流拠点として整備する川の駅とがリンクしたようなものになります。

―川の駅の進捗状況は。

基本設計までが終わった状況です。ただ、このことに加えて次の事業を考えています。大和川と隣接するのは、三郷町が奈良として最後になります。そうしたことから環境教育をしたいなと「奈良のゴミを大阪湾へ流さないプロジェクト」というものを役場の中でつくりました。海洋プラスチックゴミというのは7割が川から出ています。それじゃあ、海のない奈良は何をすべきかと考えたら、大和川に流れるゴミを、大阪湾へ、海へ流しませんよということを始めていきたいんです。

―おもしろい取り組みですね。それをどのように環境教育へとつなげていくお考えですか。

流れてくるゴミをみんなで取って、そのゴミを分別することでどのようなものが流れているかを学ぶことができます。現在、そのゴミからプラスチックを拾い上げて再生してもらう企業を探しています。また、植物由来の土に還るプラスチックもありますから、そういったことも教育に役立てられないかなと考えています。ゴミの問題解決に大事なことは、やはり教育であって意識付けです。いくら拾ったところで、流す人がいるとキリがないので、流したらどうなるということをきっちり教育として学ぶことが重要だと思っています。

―五つ目は先ほどの、のどか村の件ですね。

そうですね。お願いを続けて浚渫工事で出る大量の土砂の受け入れを承諾していただけました。その土砂を利用して広域防災拠点や避難所を整備していきます。そして最後の六つ目は、今まで町で一番水害の多かった惣持寺地区に、1万6000立法メートルの池を作ります。そしてその上部活用として今、防災公園とヘルスパークという形で検討しているところです。長くなりましたが、これが6大事業になります。

FSS35キャンパスの整備が進む奈良学園大学の跡地

―最後に三郷町が目指すビジョンについてお聞きできますか。

6大事業を包括したものになりますが、FSS35キャンパスを「生涯活躍エリア」、川の駅やかわまちなどを「にぎわい創出エリア」といったようにエリアに分けたまちづくりに取り組んでいきます。特に観光については町全体を「観光促進エリア」として、これまで信貴山のどか村や龍田大社、龍田古道など、異なる役割を持った観光資源それぞれを結びつけた観光促進に取り組みます。

―ありがとうございました。

奈良県信用金庫協会

奈良信用金庫
理事長　田村　好美
本店　大和郡山市南郡山町529の6
TEL　(0743)54-3111(代)

大和信用金庫
理事長　森川　善隆
本店　桜井市桜井281の11
TEL　(0744)42-9001(代)

奈良中央信用金庫
理事長　高田　知彦
本店　磯城郡田原本町132の10
TEL　(0744)33-3311(代)